

### 第3節 学校外の学習機会

#### 1. 学習塾と予備校

【学習塾や予備校に通っている中学生は、全体の47.5%でほぼ前回並みである。中学生は学校中心ではなく、学校外の学習機会を積極的に利用している。彼らが通う学習塾・予備校の大半は「補習塾」タイプであり、この割合は前回よりも増えている。日数は全体の4分の3が「週に2～3日」に集中している。地域差もきわめて大きい。】(図1-8、表1-5)

Q 5

あなたは今、放課後や日曜日に、学習塾や予備校へ行っていますか。  
(そろばん、習字などの塾は除きます。「公文」のような自習教室は含めます)

SQ 1. [行っている人にうかがいます] 週に何日行っていますか。

SQ 2. あなたの行っているのは、どんな学習塾(予備校)ですか。もっとも近い番号1つに○をつけてください。

中学生は、学校だけで学習活動をしているわけではない。現在、学校外でさまざまな学習機会が提供されている。ここでは、学習塾、予備校、通信教育、家庭学習教材など、学校の正規の授業以外の学習機会の利用状況を探ってみた。

まず、放課後や日曜日に学習塾や予備校に行っている割合は、47.5%に上った。中学生の半数近くが、学習塾や予備校を利用していることになる。中学生の学力の「多様さ」に、学校での学習や「復習中心」の家庭学習だけ

では対応しきれないということなのかもしれない。とはいえ、利用率は前回よりも1.7ポイント増えたにすぎない。

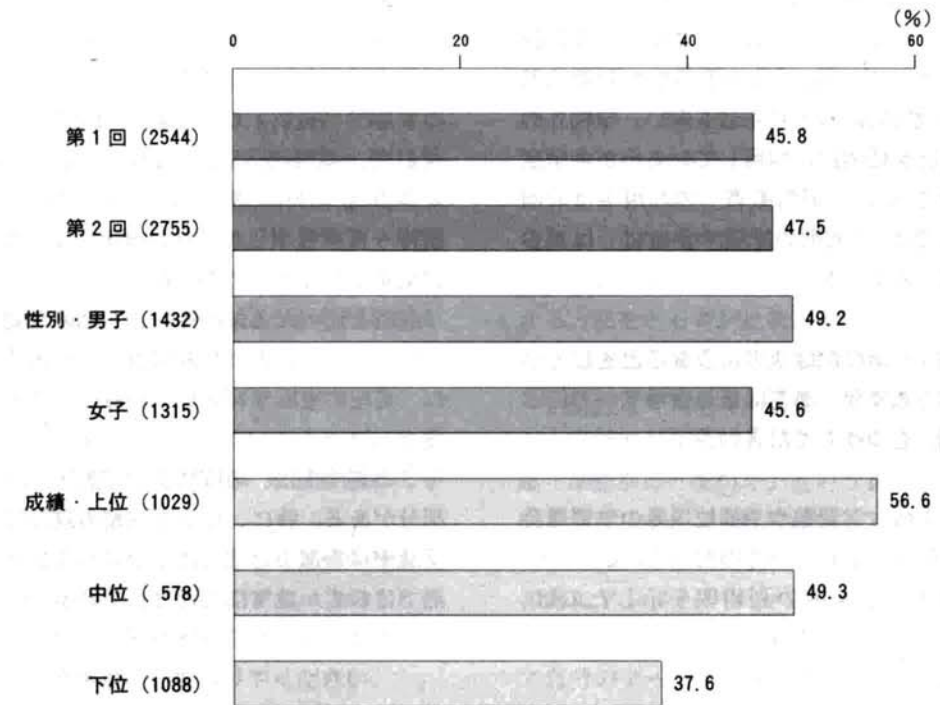
性別にみると、女子よりも男子で若干高く、成績が上位になるほど利用率も高くなるのがわかる。また、地域差はきわめて大きい。最も利用率が高いのは地方都市で約6割に達する。大都市も過半数(51.8%)に上っているが、郡部はかなり低い利用率にとどまる。つまり、地域によって学習塾や予備校の位置や役割は大きく異なっていると考えなければならない。大ざっぱにいうと、学習塾や予備校の利用率が低い地域ほど休日の勉強時間など家庭での勉強のウエイトが高くなっているようである。

さて、学習塾や予備校の利用頻度(週あたり)はどのようになっているのだろうか。もっとも多いのが「2日」で全体の50.4%を占める。これに「3日」(26.5%)が続く。この2つに全体の4分の3が集中している。前回と比べると、3日以上割合が若干減る傾向がみられる。

属性別では、男子や成績上位者で数値が高いが、差はほんのわずかである(地域に関しては、大都市で日数が多く、郡部で少ない)。

学習塾や予備校のタイプとしては、「補習塾」が全体の7割に上る。「進学塾」は2割強にとどまっている。中学生の「補習塾」志向は、前回調査時よりも強まったようである(9.1%の増加)。大都市は、単に学習塾や予備校の利用率が高いだけでなく、「進学塾」の割合が他地域に比べて非常に多い(2～5倍)。

図1-8 学校外の学習機会(利用している割合)



注) ( ) 内はサンプル数。

表1-5 予備校・塾の利用(週あたり)

	第1回 (2544)	第2回 (2755)	性別		成績別		
			男子 (1432)	女子 (1315)	上位 (1029)	中位 (578)	下位 (1088)
1日	11.0	11.7	9.5	14.2	10.3	11.2	13.9
2日	44.4	50.4	50.7	50.2	50.0	51.6	49.4
3日	30.0	26.5	27.3	25.7	27.0	28.4	24.9
4日	8.9	7.2	8.5	5.5	8.1	6.3	6.6
5日以上	3.4	2.2	2.3	2.0	2.9	1.1	1.9

注) ( ) 内はサンプル数。

## 2. その他の学習機会

【その他の学習機会でもっとも多いのは「『進研ゼミ』のような通信教育」であり、3割近くが利用している。「塾や予備校の夏期講習（今年の夏休み）」の利用者も多い。学校外の学習機会を積極的に利用しているのが中学生の特徴である。「通信教育」の利用率は前回よりも増え、「宅配の家庭学習教材」は減少した。】（表1-6）

Q6

あなたは次のようなことをしていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

中学生は、学習塾や予備校以外の学習機会をどの程度利用しているのだろうか。

今回もっとも高い利用率を示したのは、

「『進研ゼミ』のような通信教育」であり、28.7%に達している。これに「塾や予備校の夏期講習（今年の夏休み）」（23.6%）、「宅配の家庭学習教材」（12.1%）が続く。これに対して、「家庭教師」（7.0%）、「学校が行う夏期講習（今年の夏休み）」（3.4%）、「学校が行う補習授業（朝や放課後）」（1.9%）を利用する者はきわめて少ない。

前回と比べたときのもっとも顕著な変化は、「『進研ゼミ』のような通信教育」が増え、逆に「宅配の家庭学習教材」が減ったことである。

この利用率は、地域によって大きく異なる部分がある。特に、塾や予備校の夏期講習の受講率は大都市と地方都市で3割を数え、郡部ではわずか数%にとどまっている。

表1-6 その他の学習機会

	(%)	
	第1回 (2544)	第2回 (2755)
1. 家庭教師	7.4	7.0
2. 「進研ゼミ」のような通信教育	20.5	28.7
3. 宅配の家庭学習教材	19.1	12.1
4. 学校が行う補習授業（朝や放課後）	—	1.9
5. 塾や予備校の夏期講習（今年の夏休み）	24.0	23.6
6. 学校が行う夏期講習（今年の夏休み）	8.5	3.4

注) ( ) 内はサンプル数。